

# 市議会 役割発揮

## 税金のムダ使い正す 1297万円削減

## 公金横領 再発防止へ処分強化

議案否決↓臨時議会に議案再提出

### 「議決を重く受け止め、全額削除」市長

6月25日閉会した6月議会。おおたかの森地区に建設中の小中学校併設校（来年4月開校）に関する『財産取得』議案が反対多数（賛成4、反対21、棄権1）で否決されました。おおたかの森地区では、子どもが増加し、小中学校の建設は必要不可欠。それでも「ノー」の審判をなぜ議会が下したのでしょうか。

### 「黙って賛成、それでも議員？」

議論の焦点は、併設校建設現場で働く労働者用トイレに付随した『仮設浄化槽1297万円』を流山市が全額負担する理由でした。学校建設を取り仕切る独立行政法人UR都市機構は、浄化槽の必要性を認識しつつも、事業費の見積りに入れず、市へも未報告でした。

浄化槽は、建設を受注したゼネコンが半年前に設置済で、議案否決でも影響しないことから、再協議を求め議会が重い処分を下したのです。

### 「市や市民にメリット」

7月14日開催された臨時市議会では、市長から「浄化槽経費は、全額、市の負担としない。修正議案を提出する」と報告。委員会では小田桐市長の質疑に総務部長も「（公費負担

の声も聞かれています。（小田桐市長の討論は、市議会ホームページで録画映像がご覧になれます）



建設が進む小中学校併設校

### 市長・副市長への処分『3ヶ月間』↓『6ヶ月間』へ 議会が議案を修正 （※議会質疑の様子は市議会HPで見ることができます）

今年5月、公金横領が発覚しました。6月議会では、任命責任等から市長・副市長の報酬を『10%削減・3ヶ月間』とする議案が審査され、質疑の結果、市職員の減額処分条例の最長期間である『6ヶ月間』へ延長する修正案が可決・成立しました。

### 「処分必要なし」って？

「もっと重く」との市民の批判が

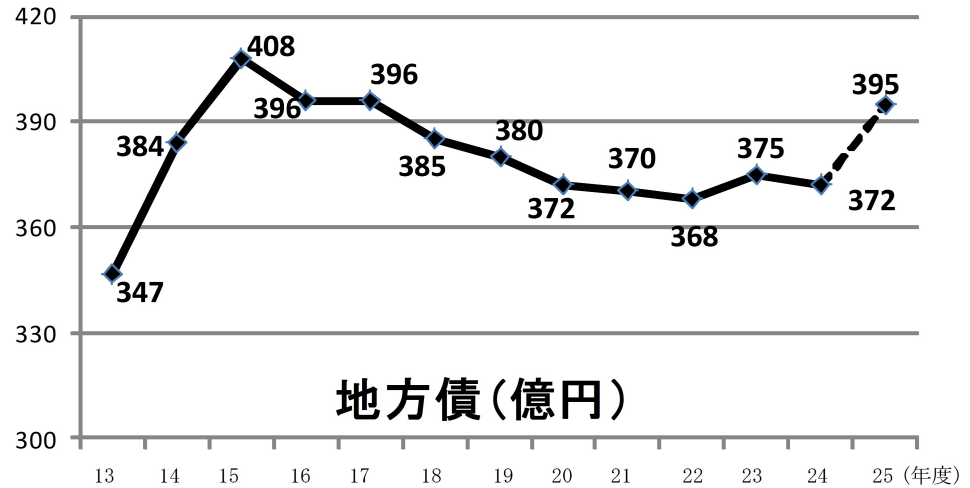
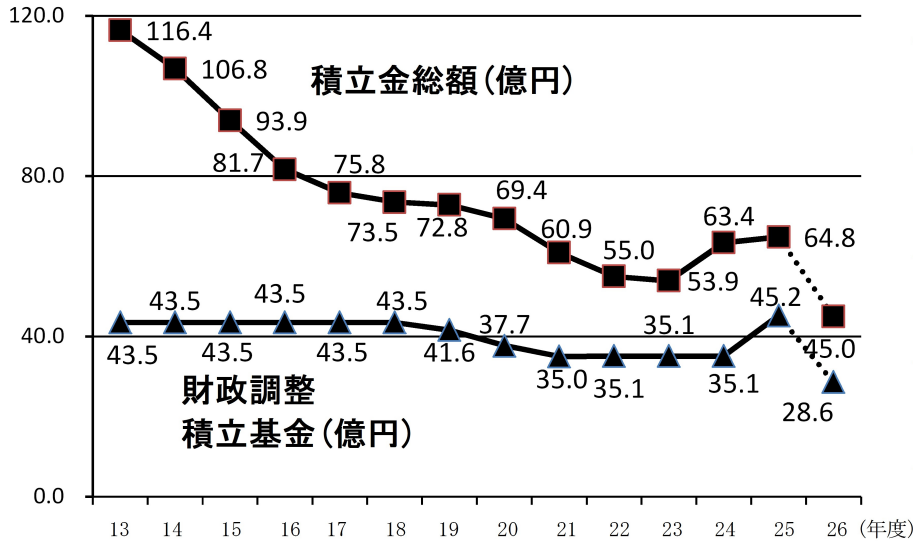
聞かれる一方、「適正」と修正案に反対討論した会派も。それどころか、議案全部に黙って反対した議員（酒井睦夫議員）もいました。

「訂正時間もあつたのにしなかった。同じ会派が討論して修正部分だけに反対した姿と比較して、議案そのものに黙って反対。市長の処分は必要ないってこと？」…市職員も首をかしげています。

# ご存知でしたか？市財政の実態

みなさんのご意見をお聞かせください

takashi70612@yahoo.co.jpまで



借金(50億円)増、積立金(70億円)減

市議会では「公債費負担比率」「財政力指数」など行政的指標を使い、「市財政は大丈夫？」と質問をされる議員もいますが、借金(地方債)がどれだけ減り、積立金がいくら増えたのでしょうか。

6月議会総務委員会での市当局の答弁をまとめると上表になります。「財政危機」と井崎市長が初当選したのがH15年度。H13年度以降の推移は、借金は50億円増え、積立金は70億円減っているのです。TX開通後、若い世代の人口増加で、税収も増加しています。しかし、TX周辺のまちづくりや公共施設の老朽化対策を見れば、財政の余裕はありません。

にもかかわらず、おたかの森地区の小中併設校建設・市民総合体育館建替えだけで190億円もかけ、借金返済がH52年まで続く…これが最後まで責任を持った行財政運営なのでしょうか。

井崎市長は、1期目最後に財政の『危機突破』を理由に、2割の報酬削減を自らやめました。いまや「金額に見合う改革はしている」と1556万円の市長退職金(任期毎に支給)を受け取る算段です。本当にこれでいいのでしょうか。

いま議会の役割の大きさを改めて実感します。市議会では、集団的自衛権行使容認の閣議決定をめぐって、国民に開かれた場での『慎重審議を求める意見書』を全会一致で議決しました。県内では唯一です。

各議員の思想や立場、理念は様々ですが、「地域住民にとって良いものは良い」と一致点での共同が広がっています。住みやすい流山市へ、引き続き頑張ります。

日本共産党  
市議会議員

小田桐たかし



流山民報(号外) 発行: 日本共産党流山市議団  
小田桐事務所連絡先: 7154-8253  
携帯090-8567-8858